

私たちの使命は、
高品質で安全・安心な飼料を
安定的にご提供することです。

昭和 36 年小樽に、昭和 41 年釧路に、それぞれホクレン直轄の飼料工場が建設されました。その後、国民の食生活が食肉、鶏卵、乳製品へと指向するに伴い、これらの需要に応じて、昭和 42 年、小樽・釧路の飼料工場をホクレンから分離し株式会社として発足したのに続き、昭和 43 年旭川（平成 13 年閉鎖、旭川倉庫を新設）、昭和 46 年苫小牧（小樽閉鎖）にも独立のくみあい飼料株式会社が設立されました。昭和 49 年 8 月、合理化のためこれら 3 会社を合併、現在の「ホクレンくみあい飼料株式会社」に社名変更し新会社の設立となりました。

その後、昭和 51 年帯広工場、昭和 54 年北見工場、昭和 59 年釧路西港工場（旧釧路閉鎖）、平成 23 年には十勝工場（北見・帯広閉鎖）をそれぞれ建設し、系統飼料工場群の整備拡充を図ってまいりました。

この間、品質管理の強化ならびに農林水産省の BSE に関する新ガイドラインに対応するべく、苫小牧工場敷地内に鶏・豚用飼料工場を建設し、平成 17 年 4 月より操業を開始いたしました。これにより、牛用と鶏・豚用の飼料は別な工場で製造され、今まで以上に高品質で安全・安心な飼料を製造できるようになりました。

現在、『食の安全』に対する消費者の関心が高まる中、平成 15 年 12 月に品質管理および品質保証の国際規格である「ISO9001」を取得、また平成 20 年から 21 年にかけて全工場において抗菌剤 GMP ガイドラインの認証取得を完了しました。

安全・安心に関わる全てのシステムを明確にし、確実に実行することにより、より良い製品をお届けしています。

今後とも、食糧基地を担う本道酪農畜産生産者および消費者の皆様のご要望に応え、酪農畜産の発展に寄与するよう努めてまいります。



北海道の酪農・畜産とともに 歩んできました。



■ 概 要

- 会社名
ホクレンくみあい飼料株式会社
- 本社所在地
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
北農ビル 18階
TEL (011)222-3301 (代表)
FAX (011)222-3304
- 工 場
釧路西港・苫小牧・十勝
- その他施設
粗飼料分析センター（訓子府）
- 設立
昭和49年8月1日（合併）
- 資本金
15億2,700万円
- 従業員数（役員除く）
179名（平成30年4月1日現在）

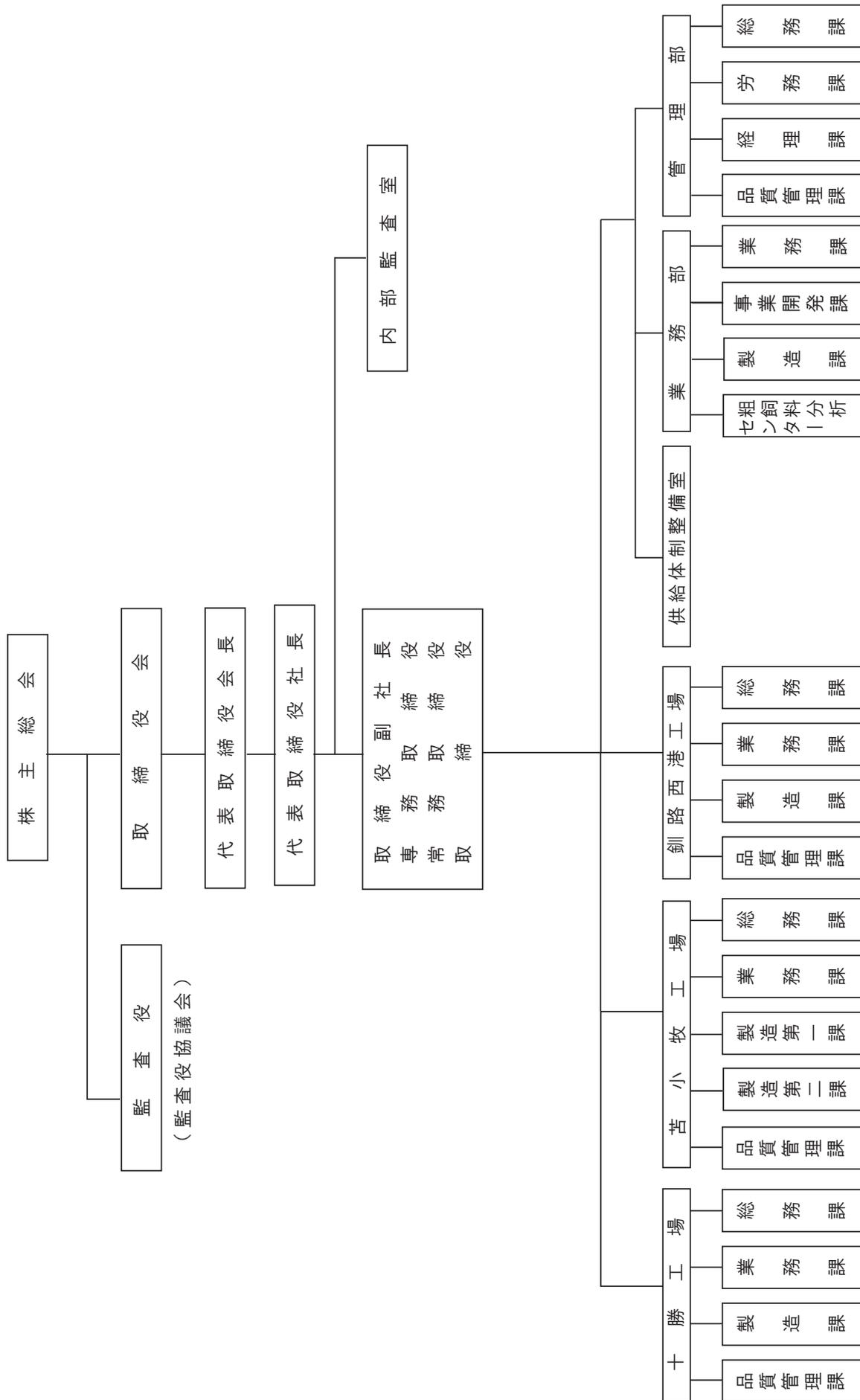
■ 沿 革

- 昭和42年7月 小樽くみあい飼料株式会社操業
- 昭和42年7月 釧路くみあい飼料株式会社操業
- 昭和43年12月 旭川くみあい飼料株式会社操業
- 昭和46年4月 苫小牧くみあい飼料株式会社操業（小樽閉鎖）
- 昭和49年8月 ホクレンくみあい飼料株式会社設立（3社合併）
- 昭和51年4月 帯広工場操業
- 昭和54年10月 北見工場操業
- 昭和59年10月 釧路西港工場操業（釧路工場閉鎖）
- 平成13年7月 旭川倉庫新設（旭川工場閉鎖）
- 平成17年4月 苫小牧工場 鶏・豚用工場操業
- 平成23年4月 粗飼料分析センター開設（北見工場閉鎖）
- 平成23年6月 十勝工場操業
- 平成23年8月 帯広工場閉鎖



組織図

ホクレンくみあい飼料株式会社 組織図



年間 80 万トンの安全・安心な 配合飼料を製造しています。

■ 全道主要拠点で稼動する飼料工場群

私たちの工場は、全道各地の需要エリアに効率よく製品をおとどけできるように、釧路、苫小牧、土幌の3つの主要拠点に配置されています。

ここで生産される製品は、年間 84 万トン（平成 29 年度実績）にのぼり、道内各地の酪農、畜産経営を支援しています。

工場では、原料や製品の物流、生産システムをコンピューター制御で管理し、原料の受け入れ、在庫の管理、製品の出荷など、自動化を最大限取り入れ、安全・安心・高品質の製品を効率良く製造しています。

■ 釧路西港工場

- 製造能力／月産・定時 16,000 トン（牛専用）
- 敷地面積／ 52,565 平方メートル
- 操業／昭和 59 年 10 月



■ 苫小牧工場

- 製造能力／月産・定時 12,000 トン（牛専用）
月産・定時 6,000 トン（鶏・豚専用）
- 敷地面積／ 59,207 平方メートル
- 操業／昭和 46 年 4 月（牛専用）
平成 17 年 4 月（鶏・豚専用）

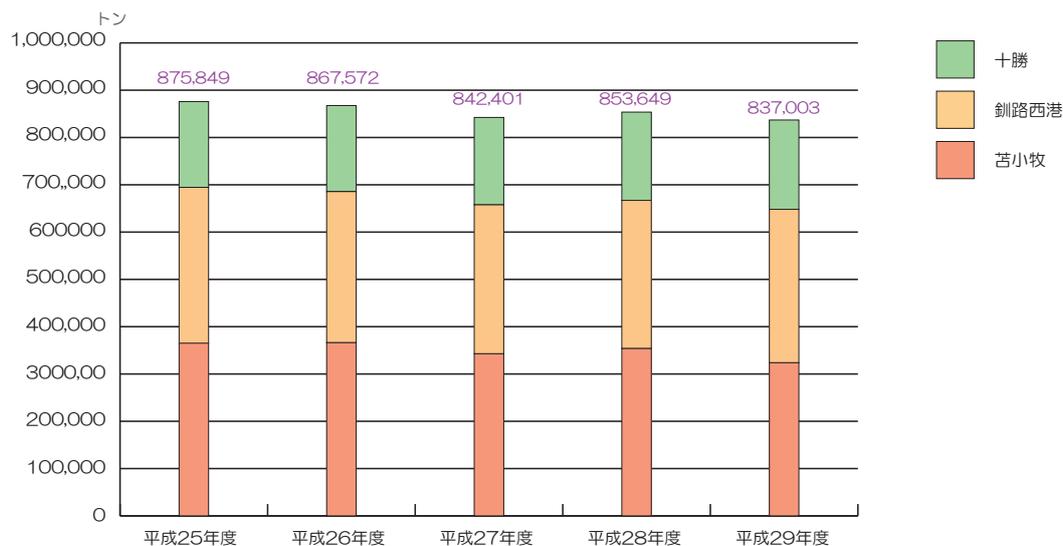


■ 十勝工場

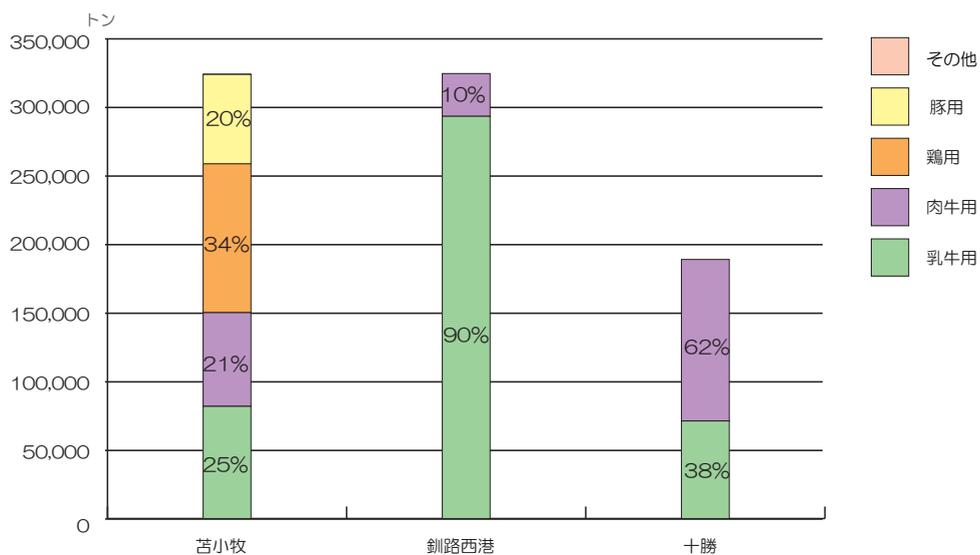
- 製造能力／月産・定時 8,000 トン（牛専用）
- 敷地面積／ 49,135 平方メートル
- 操業／平成 23 年 6 月



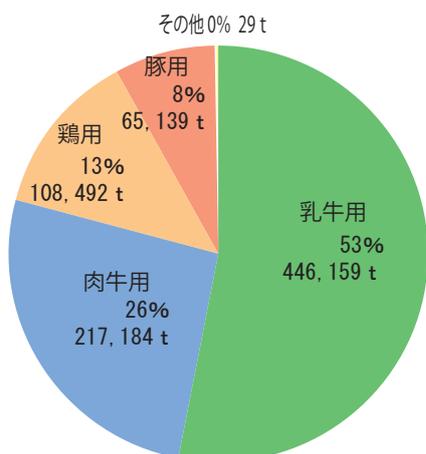
年度別・工場別 出荷数量



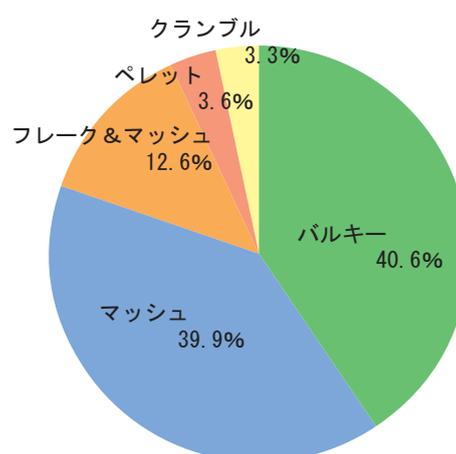
工場別 出荷数量 (平成29年4月～平成30年3月)



畜種別出荷実績 (平成29年度)



形態別出荷割合 (平成29年度)



主要な原料



とうもろこし



ふすま



大麦



ルーピン

原料の輸送システムも 飼料の安定供給に大きな役割を はたしています。



原料受入設備

原料はアメリカをはじめ世界各国の産地から大型穀物専用船により臨海穀物サイロに陸揚げ後、臨海工場へは直結のコンベアーで、内陸工場へは大型専用トレーラーで間断なく搬入されています。

内陸工場での専用車の受入は電動式トラックダンパーを採用し、CO₂削減による環境保全にも配慮されております。





バラ出荷棟



中央操作室

畜種別専用工場の整備

農林水産省は平成 15 年 9 月に牛用飼料への動物性たん白質の混入防止を目的として、牛用飼料の製造および保存について、製造工程等を分離して他の飼料との混入を防ぐことを義務付ける新ガイドラインを制定しました。

これを受けて、弊社は苫小牧工場敷地内に鶏豚専用工場を建設、当社の全鶏・豚用飼料をここで生産し、道内各地へと配送しています。製造工場を分けることにより、さらに安全な配合飼料の製造が可能になりました。

これからも飼料の安全性確保について追求してまいります。

常に高品質・安全・安心な 配合飼料づくりに努めています。

高品質を目指して

高い品質、そして安全な飼料づくりをめざし、最新の設備を導入。製品の品質と安全性の向上に向け、私たちは日々努力を続けております。

ユーザーからの多様なニーズにお応えできるよう、少量多品目化および専用銘柄など、製造・出荷体制の整備にも力を注いでまいります。



微量原料計量設備

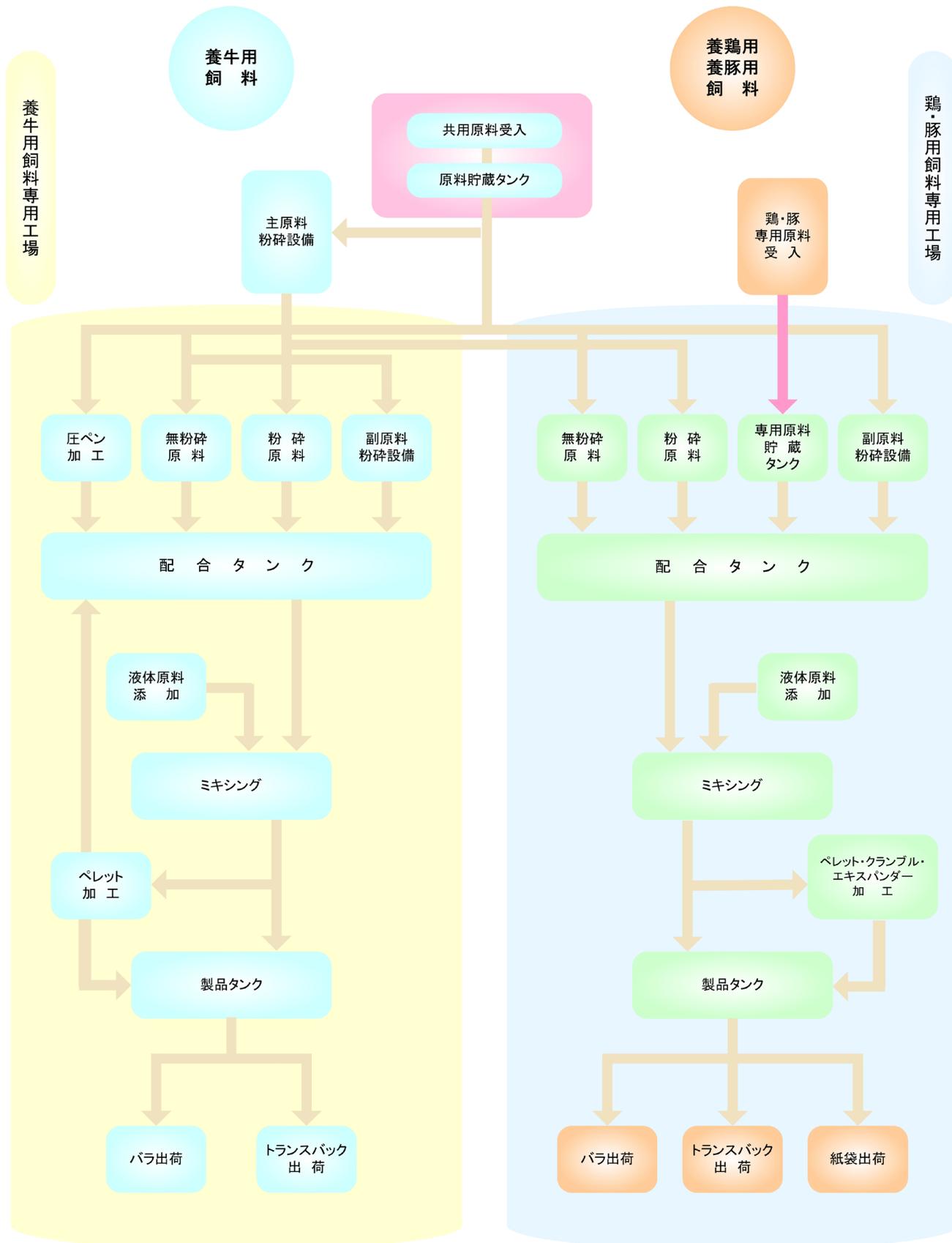


主配合混合設備（ツインパドルミキサー）



熱処理加工設備（エクパンダー）

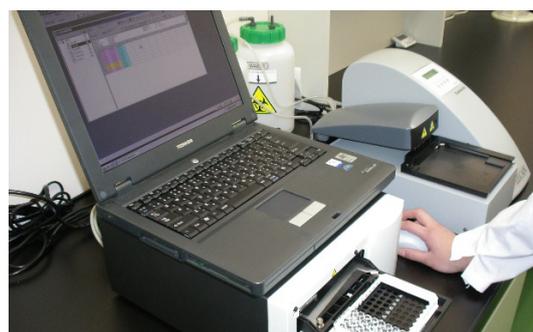
製造工程の概要



充実した品質管理体制

現代の食生活は、多彩な加工食品と多様化の一途をたどっております。「食の安全・安心」が消費者から求められ、畜産物の生産に欠かせない配合飼料にも食品と同じレベルの安全性と品質が要求されています。

これらの要求に応えるため、私たちはHACCP手法に基づいた衛生管理、ISO9001システムに基づいた品質管理体制を採用、さらに抗菌剤GMPガイドラインの認証も取得し安全性の高い高品質な配合飼料生産を実現しています。



HACCPとは

HACCPとは食品製造の一連の作業工程において、食品が健康に影響を及ぼす可能性のある危害を分析・予測（Hazard Analysis:HA）し、予測した危害を防止するために対応できる危害重要管理点（Critical Control Point:CCP）を設定し、それを監視する事によって事前に危害発生を防止する方法のことです。

分析システム

酪農経営安定向上のために、粗飼料分析を行ない、生産者の皆さまのご要望にすみやかにお応えし、大切な飼料給与設計の一翼を担っております。

徹底した品質管理と技術力を柱に、 新たなる可能性に挑戦します。

安心していただける製品です。



乳牛用バルキー飼料



肉牛用バルキー飼料



養鶏用マッシュ飼料



養豚用ペレット飼料

(製品の一部を載せておりますが形態の違いを示したものです)

出荷システム

生産された良質の製品を、生産者の皆さまに安定的にお届けするための出荷システムも万全です。

出荷の主流を占めるのはバラ製品ですが、これはバルク車によって直接届けられます。

遠隔地へは主要拠点に中継基地を設け、大型トレーラーやトランスバックを使って大量に運ばれます。

小口出荷にも効率的かつ機動的に製造可能な自動コンテナ方式の設備を導入し、キメ細かな対応が図られています。

原料車両、製品車両ともに車両消毒装置により洗浄し、衛生面での安全性も万全です。

このように製造工程から出荷までの一環した合理性と安全性が生産者の皆さまから信頼をいただく大きな要因となっております。



車両消毒設備



バラ製品タンク出荷設備



コンテナ物流（反転機）設備



小口出荷設備

速やかに安定的にお届けできる
出荷体制が完備。